

今夏の天象をふりかえって

A 7, 8月の火星面概況

15cm反射経緯台の完成後最初にみたのは7月26日夜でしたが、8月にかけて得られた約30数枚のスケッチから述べてみようと思います。初心者でありますので誤っているところもあるかと思いますが御批判等いただきたいと思ひます。

7月8月と追跡は夜半前が主体です。7月下旬は俗にアリンの爪と呼ばれる部分を中心に見ました。有名なシルチスは火星面左端に没し、フォーク状のアリンの爪付近が最も濃く、良シーング下では鋭い爪の部分がみられました。(28日)その部分より右側つまり経度 40° あたりが中央になりますと真珠の湾とオーロラの湾が濃く、アギタリアの海の一部が画面下にみえていました。この両者の湾が濃くその中間にあるアルギユレがいつでも淡くみえます。画面右ななめ上端に太陽の湖らしい部分がみえていて、オーロラ湾のすぐ右側につらなる部分とも明瞭(28日)30日夜にはサバ人の湾の部分が中央にみえ、左ななめ上にヘラスがくっきりみえておりました。シルチスも面左下端に若干みえておりました。

× × × × × ×

8月にはいと連日曇天と雨で悩まされ、快晴の日に留守していたりして追跡できませんでした。大接近の12日は若干晴れ間がありました。シーング悪くどこがみえているのかわからない状態でした。

長崎大学の10cm屈折赤道儀で18日夜みたと

原 口 孝 昭 (長崎大学教育学部)

が久しぶりでしたが、経度 180° 付近にあるシレーンの海付近のようでした。がほとんど模様らしきものはみえずシレーンの海だけが濃く、極との間に淡い部分がみられるというぐあいでした。

15cm反経は21日使いましたがやや光軸が狂い良像が得られませんでした。このころになるとキンメリア人の海付近がみられ、おそらくケルベルス運河だろうと思ひますが走っています。南極に近い方にはエレクトリス、エリダニア、アウソニアといった淡い部分がみえておりました。(22日)よく注意するとケルベルス運河と思われる部分の下に淡い部分があり、これがエリシウムであろうと思ひます。25日頃も大差なくその部分がみられましたが経度 240° 付近が画面右端に出てきており、有名な大シルチスがもう少しでみられようかとする頃でした。天気具合から夜半前を利用して追跡は22時頃までに終了しておりますので、8月中はこの日が最後でした。9月に入ってみると、7月下旬みえていたサバ人の湾や子午線の湾、いわゆるアリンの爪の部分がみられました。これで火星の一周した姿を見ることができたこととなります。

小望遠鏡の対象となったであろう極冠の変化は5月はじめはものすごく大きく輝いておりましたが、7月はぐんと小さくなっており、1カ月たった8月下旬からみて溶け方が急な感じを受けております。急速に極冠が小さくなっているようです。それにつれて北極地方(画面下)が白味が増し、明るくなってきているようです。

火星の運河は細線状や斑点状などには分離できませんでした。濃淡によってスケッチを残していたら大きな運河をとらえていたという結果です。

火星面での嵐がこの9月にみられるかもしれないとのこと、こうしているうちにも異変が起っているかもしれませんが火星はどんどん遠ざかっており、見にくくなります。それよりもこの異変続きの地球上の方が関心をそられる今日今頃です。

B その他の天象

木星はすでに異変が起っており、南赤道縞の攪乱がみられます。7月下旬みられない縞があったので佐藤健氏(O・A・A 木星課長)に連絡しましたら前述のとおりでした。木星の没が早く、低空にあるため大気の影響ひどくその後の追跡はわずかです。観望した限りでは縞の濃度が淡く、しかもごちゃごちゃとみえております。有名な大赤斑への影響もあるようですが、やや淡くなったかと思えるくらいです。5月14日さそり座 β 星をかくしましたが、その時の β 星が木星大気により減光され完全に見えなくなるまでの時間を30秒と測定しております。この結果と木星・地球の相対速度とから木星大気の厚さを約600kmと求めました。これは数値の遊びとして行ない概略的ではありますが、最近の木星大気の研究と一致したという珍しいものでした。

8月7日朝の既月食は長崎地方曇天のち雨天のため見られませんでした。夜半前はうす曇ながらも月がみえておりましたので期待してはおりましたが……。

8月13日朝をピークに活動するペルセウス流星群も曇天、雨天のため追跡できておりません。

13日の夜、14日の夜と晴れましたので試みましたが、13日夜は夜半前にしてはかなり出現し、長径路、有痕流星がひんぱんにみられました。ふつうの年でも夜半前つまり夜8時から9時頃はピーク時であっても少ないのでありますが、1時間あたり20個みられました。このうちの半数以上が同群流星でありますから修正すれば約40個くらいとなってあるいはピークは13日の夕刻か昼すぎにあったのではないかと思うくらいです。

11・12日朝それに13日朝の結果をみないことには速断はできませんけれど……。

× × × × × ×

今夏は貴重な天象が重なっておりましたが、涼しい夏、雨の多い夏になり、本格的夏空は7月下旬だけでありました。なお使用した望遠鏡は反射式経緯台(自作)鏡面は星野次郎氏作の152ミリ(有効口径)で、倍率は214をかけています。

結果(スケッチ)は長崎大学教育学部屋上の天文台に展示あるいは残しますので、御覧になりたい方はお出かけ下さい。